

# 総合学習（人間領域）

宮 島 浩 典 木 戸 寿 和 子  
丹 保 博 坂 江 一 郎  
吉 本 克 司 的 場 茂 樹  
草 鹿 万 里 浅 田 幸 子

## 1 領域の目標

人間領域では、全体論の総合学習でめざす子どもの姿「共に生きていく社会や環境をよりよく築いていく子」を受け、以下の目標をたて具体化していくことにした。

一人一人が 互いを尊重し合うことの大切さに気づき 他とかかわり合いながら  
よりよく生きようとする態度を育む

人が生活する社会においては、人は人とのかかわりのなかで生きている。人はそれぞれ感じ方が違い、見方や考え方が違う。また、同じである場合もある。さまざまな人が、それぞれに人とかかわってよりよい人間関係、よりよい集団、よりよい社会を築き上げていくには、違いに対して排他的であってはいけない。自分が社会における大切な一人であると同様に、他者も大切な一人なのである。人と人とのかかわりの中で、互いの違いや同じところを認め合いながら、みんなが生きる社会を共有していくことが求められる。そのようなかかわりを持っていくことができるようになることで、「共に生きていく社会や環境をよりよく築いていく子」につながっていくと考える。

## 2 カリキュラムを創るにあたって

### (1) 取り上げた視点について

目標にある「互いを尊重し合う」というときには、その前提として自分自身を大切にできることが求められよう。自分の命はもちろん、生活において自分らしく生きていけるような自分の存在がなければならない。自分を大切にすることこそ、一層他者に対しても自分と同じように大切に尊重していかねばならないという考え方がかかわっていくことができるのである。このようなことから、1つの視点として、「自分らしく生きる」ということまでを含んだ「命」を取り上げることにした。この命については、いつの時代においてもその尊厳にふれ大切にしていけるものとして扱っていくことが必要とされている。自分らしく生きるということについては、生涯学習の面から見てもますます重要な視点となってきているといえよう。

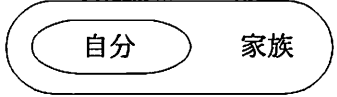
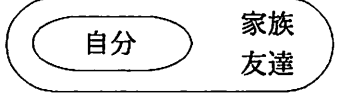
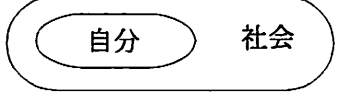
次に私たちが取り上げたことは、「交流」という視点である。社会（地球）にはいろいろな人が暮らしている。お年寄り、障害を持った人、いろいろな国の人などさまざまである。さまざまであれば当然、感じ方や見方・考え方が違う。違いばかりではなく共通の部分もあろう。そんなさまざまな人とかかわってよりよい社会を築いていくことが、今後ますます重要になってくる。そこで、ふだんふれあう機会が少ない人たち（障害を持った人や外国の友達）と交流し、どういう立場の人であっても互いを尊重していくことの大切さに気づいていけるような素地を作りたいと考えたのである。

3つ目として、「ボランティア」の視点である。これからの社会において、社会が自分に対して何をしてくれるのかといった考えではなく、社会に対して自分は何ができるのか（何に貢献できるのか）という考え方が求められるのである。また、よりよい社会を自分がつくっていくのだという認識と行動力が望まれるのである。このようなことから、子どもが自分の生活環境において、あるいはもっと大きな視野に立って自分ができることを見つけて活動していくことが大切であると考えたのである。

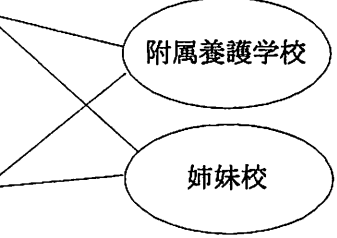
この取り上げた3つの視点で、1年生から6年生まで、さらに具体的な内容を考えていく上で

の拠り所として、以下のようにそれぞれの視点における内容的な系統性を考えた。

① 「命」について

1、2年	自分を中心にした家族とのかかわりにおいて、自分はかけがえのない存在であることや、よりよい生活の仕方にかかわる内容を取り上げる。	
3、4年	自分を中心にした家族や友達とのかかわりにおいて、自分らしく生きることにかかわる内容を取り上げる。	
5、6年	生命の神秘や尊厳を科学的・社会的な面から掘り下げていけるような内容を取り上げる。	

② 「交流」について

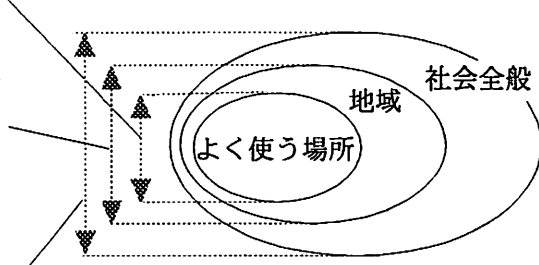
1～4年	人には同じところや違うところがあることを知り、いろいろな人がいることに気づいていくような内容を取り上げる。	
5、6年	いろいろな物事に対して、感じ方や考え方が同じであったり違ったりすることを大切に認め、ていくような内容を取り上げる。	

\*養護学校との交流については、初めてのことであり、行事等に招待することを通して少しずつふれ合っていくような活動から始める。

\*姉妹校との交流については直接的なかわりが不可能であることから、それぞれ次のことを中心にして活動していくことにする。

- 1、2年生—作品の交歓
- 3、4年生—学校紹介や生活の紹介
- 5、6年生—意見の交歓

③ 「ボランティア」について

1、2年	学校生活においてよく利用する場での活動を取り上げる。	
3、4年	学校生活にかかわる場所に加えて、地域社会というこれまでより広がりのある場所や空間での活動を取り上げる。	
5、6年	視野をさらに広げて社会の情勢等に目を向けていけるような活動を取り上げる	

(2) 単元を構想するにあたって

全体論では総合学習の単元を構想していくときに、①体験的活動を取り入れる ②学びの個性化を推進する ③学びの個性化に合わせて環境を整備することの3つを留意点としてあげている。そこで人間領域では、それぞれを次のように考えて単元を構想していくようにした。

### ① 体験的活動を取り入れるについて

視点の1つである命にかかわっての体験的活動として、家族の人に直接聞き取る活動や、専門的な知識を持つ人とのディスカッション、疑似体験としてのロールプレイングなどがある。いずれも直接人とかかわるなかで新しいことを感じたり、見方や考え方を広めたり深めたりしていく活動であるといえる。このような活動をしていくときには、知りたいという気持ちを高めておくことや追求している方向を明確にしておくことが必要である。

交流にかかわっての体験的活動として、直接ふれあうことができる活動も考えられれば、互いのものやこと、共通のものやことなどに対する見方や考え方を媒介として間接的にしかふれあえない活動も考えられる。どちらの場合であっても、相手をより意識した計画にもとづいて活動をしていくことが必要であると考ええる。また、ふれ合っていく活動は、その機会が多いほど望ましく、相手をより意識していくときには対象をできるだけ絞っていく方が子どもにとってより意味のある活動につながる。

ボランティアに関しては、活動そのものが目的ともいえる体験である。見通しを持ち、ふりかえりながら継続して取り組んでいけるような活動をしてこそ、その意義に気づいていくものと思われる。

### ② 学びの個性化を推進するについて

人間領域において、学びの個性化を推進する1つに、問題を解決していく方法に個性化を図っていくということが考えられる。解決を図るために自分自身が何にアクセスして活動していくかということや、活動の順序をどうするかということ、表現していくときの方法をどうするかということなどにその子なりの方法を求めることができる。したがって、そのような場において、自分なりにやりやすい方法や得意な方法、興味のある方法で行動していけるように働きかけていくことを大切にしていかなければならないと考える。

一方、方法の個性化だけではなく、問題となることに対して自分なりの見方や考え方の違いを認めていくということもある。高学年で取り上げる生命にかかわるような内容では、全員が共通の価値観でものを見ていくのではなく、見方や考え方が共通する友達や相反する友達と考え方をぶつけ合っていくことを通して、自分の価値観を見つめ直したり一層深めたりしていくことが大切なのである。

### ③ 学びの個性化に合わせた環境を整備するについて

人的環境にかかわって、1つは、子どもが見方や考え方を掘り下げたり変容したりしていくことができるように、より専門性の高いゲスト・ティーチャーを求める必要がある。生命にかかわっての学習のように、一人一人が見方や考え方を大切に掘り下げたり変容したりしていくときには、違う立場で事象を見ていると考えられる複数のゲスト・ティーチャーを招くことが有効である。また、子どもが目的に向かって活動しているときに活動そのものが停滞しないように、ティーム・ティーチングで対応していくことも時として必要であろう。姉妹校との交流に際して、外国語の理解が必要なときには、大学生をはじめとして協力を求めていく。さらに、交流にかかわっては相手校との連絡を密にしたり、命にかかわってはゲスト・ティーチャー以外に家庭との連携を密にしたりすることが大切にされなければならないことである。

物理的環境にかかわって、インターネット等のマルチメディアの整備も大切である。特に姉妹校との交流に際しては、e-mailを子ども自身が利用して発信していけるような環境づくりの工夫が求められる。もちろん、コンピュータを扱うことであるから、その操作能力の向上をも視野に入れて取り組んでいかなければならないと考えている。

### 3 実践例 - 3.4年複式 -

#### (1) 単元名 バーウィック校の友達と交流しよう

(2) 目標 姉妹校のバーウィック校の友達と交流する活動をしなが、外国の小学生を身近に感じ、自分たちとの違いや共通点があることに気づいていく

#### (3) 指導にあたって 姉妹校との交流について

国際化の時代と言われて久しい。確かに町中には外国のものが溢れており、マスメディアを通じて外国の文化もどんどん紹介されるようになってきている。

また近年、本校でも海外旅行や帰国子女などがずいぶんと数が増え、決して珍しくはなくなってきた。そして、本校でも活用されているインターネットは、インターネット網の発達により海外とのかきねがなくなってきたと言われている。とはいえ外国はまだまだ子どもにとっては未知の国である。

今年から本校では、アメリカ合衆国メイン州のバーウィック初等学校（以下バーウィック校と呼ぶ）と姉妹校提携を結んだ。バーウィック校は、1791年創立の伝統ある学校である。また、幼稚園から高等学校までの一貫教育の学校であり、創立100年を越え、幼稚園から高等学校まで同じ敷地内で学ぶ本校との共通点も多い。

そのような姉妹校であるが、交流活動を進めるにあたり、まずぶつかるのは言葉の壁であろう。英語活動を経験しているとはいえ、まだまだ挨拶程度しか理解できない子どもにとっては大きな問題である。しかし、写真や絵、映像、歌など言葉の壁を越えて交流することができるものがあることに話し合いや活動を通して気づかせていきたい。

実際に交流活動が始まると、外国との生活や文化の違いに新しい発見や驚きがたくさんあるであろう。でもそういう中にも同じ年代

#### 単元計画（総時数 13時限）

主な活動と内容	学びを広げ深めるために
<p>1 バーウィック校のあるメイン州のことを調べる ①②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地図で場所を確認しどのようなところが予想する</li> <li>・各自でメイン州のことを調べる活動をする</li> <li>・調べたことを発表し合い メイン州のことをさらに詳しく知る</li> </ul>	
<p>2 どのように交流活動を進めるか話し合う</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: 150px;"> <p>言葉は通じないよ どうしようか・・・?</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: 150px;"> <p>まず自分たちのこと も知ってもらおう</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: 150px;"> <p>どんな勉強をしているのか 知りたいな</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: 150px;"> <p>学校での勉強や遊びの ことを絵で知らせよう</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: 150px;"> <p>電子メールを使うと速く 伝えることができるぞ</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: 150px;"> <p>歌も送れないかなあ</p> </div> </div>	
<p>3 グループや個々で交流活動を進めよう ①②③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループや個々で計画して交流活動を進める</li> <li>・言葉の問題で困ったら先生や校長先生 大学の英語科の学生に相談する</li> <li>・自分たちが交流したことをまとめてみよう</li> <li>・交流したことを発表し合う</li> </ul>	
<p>4 共通のテーマでさらに交流活動を進める ①②③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「遊び」「勉強」「音楽」「趣味」など 共通のテーマを決めてさらに交流活動をする</li> <li>・テーマに合った交流活動で情報交換し合う</li> </ul> <p>&lt;郵便で言葉や映像を伝える&gt; 絵や手紙 映像で情報交換し合う</p> <p>&lt;電子メールで言葉を伝える&gt;</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center; margin: 10px 0;"> <div style="text-align: center;">自分たち</div> <div style="margin: 0 10px;"> <p>↗ 英語科の学生</p> <p>→</p> </div> <div style="text-align: center;">バーウィック校の子どもたち</div> </div> <p>&lt;電子メールで絵や音楽を伝える&gt; 電子メールに絵や音楽を添付して伝える</p>	

の小学生として共通する点も明らかになってくるのではないだろうか。それがさらに交流活動を進めていくうえでの大きな力になっていくと考える。そしてもっといろいろ知りたい、もっと違う方法でも交流したいという新しい意欲となり、今まで遠くに感じていた外国が身近に感じることができるようになっていくことを期待している。

### 学びを広げ深めるために

子どもたちが外国の子どもたちと交流しているという実感を味わい、外国の小学生を身近に感じていくには以下の3つのことを大切にしていきたい。

#### ① 相手を意識した体験的活動を取り入れる

子どもたちは、相手を知る第一歩としてバーウィック校のあるメイン州やバーウィック校自身のことを知り、交流がスムーズに進むように調べ活動から始める。そして言葉が通じない相手にどうしたら自分たちのことを理解してもらえるか、また相手に気持ちや考えをどう伝えていくかを工夫できるようにしていく。

#### ② 個々の考えや得意なことを生かすことのできる活動を取り入れる

言葉の壁を越えて交流するには、絵や歌、かんたんな言葉と図、映像などいくつかの方法が考えられる。子どもたちにはまず、話し合いを通して、その時の伝えたいことや、自分の好きな伝達方法を選んで自由に交流できるようにしていく。

#### ③ 自由に交流できる環境を整備する

①②で述べたような交流活動を進めるためには環境を整備することが大切になってくる。特にインターネットを通じた交流では、自分の交流をコンピュータという機器を媒介とするので、そのための環境整備は不可欠である。また、交流が進んでくるとどうしても言葉で気持ちや考えを伝えたいことも出てくるであろう。そういう時は英語に堪能な校長先生にたずねたり、大学の学生に訳してもらおうといった言葉の障害を除けるような方法もとれるようにしていく。

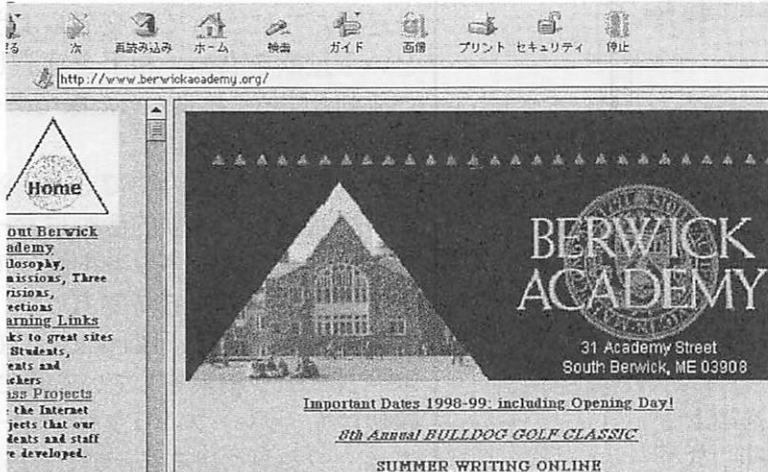
### (4) 本単元における授業の実際と考察

#### 主な活動と内容の実際

##### 1 バーウィック校のあるメイン州のことを調べてみよう

図書室の本で インターネットを使って

- ・地図で場所を確認しどのようなところか予想する
- ・各自でメイン州のことを調べる活動をする
- ・秘密の鍵（バーウィック校のホームページのアドレス）を使ってバーウィック校のホームページを見てみよう  
学校の校舎は？ 子どもたちの作品は？



- ・調べたことを発表し合いメイン州やバーウィック校のことをさらに詳しく知る

ここでは、学びを広げ深めるために設定した①～③に基づき、実践した授業について考察を進めていく。なお、本単元は現在も継続中であり、考察についても、交流前の調べ活動の場面、どのように交流活動を進めるか話し合う場面および現在までの交流活動の2つの場面について、考察を進めていく。

さらに、これまでの実践を振り返りながら、今後の活動についても併せて考察していくことにする。

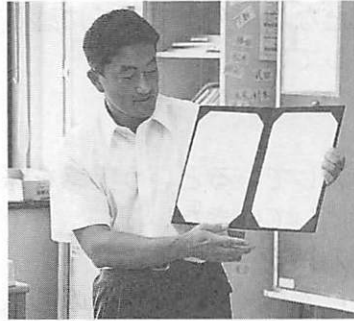
#### 交流前の調べ活動の場面

この場面では、主に学びを広げ深めるために設定した①の中の相手を意識した体験的活動について考察していく。

交流相手を意識し、交流相手のことを考えた活動をするのはなかなか難しいものである。それが今まで一度も会ったこともなく、しかも言葉の通じない海外の学校

## パーウィック校の友達と交流しよう

- ・姉妹校提携の調印書を  
紹介する
- ・パーウィック校のホーム  
ページでパーウィック校の  
様子や子どもたちの作品を  
見る（翻訳ソフトを試しな  
がら）



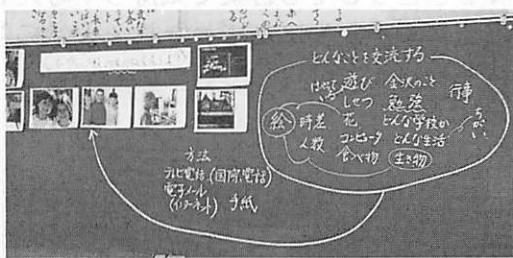
### 2 どのように交流活動を進めるか話し合おう

#### <交流活動したい内容について>

- ・遊びについて
- ・金沢のことについて
- ・日本に比べてどれくらい施設が  
あるか
- ・勉強の内容について
- ・食べ物について
- ・日本との生活の違いについて
- ・昆虫について 等々



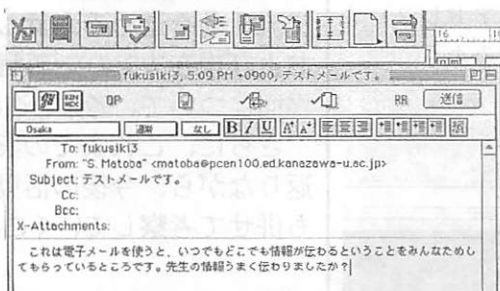
#### <交流活動したい内容について>



- ・手紙（国際郵便）  
で交流したらどうか
- ・インターネットを  
使ったテレビ電話
- ・電子メールで
- ・ファックスで
- ・電話で

#### <電子メールを体験してみよう>

- ・電子メールを使って 友達に手紙を送ってみよう
- ・電子メールで絵を送ってみよう



### 3 グループや個々で交流活動を進めよう

- ・グループや個々で計画して交流活動を進めよう
- ・言葉の問題で困ったら先生や校長先生  
大学の学生（教生先生）に相談しよう
- ・自分たちが交流したことをまとめてみよう
- ・交流したことを発表し合おう

### 4 共通のテーマでさらに交流活動を進めよう

- ・「遊び」「勉強」「音楽」「趣味」など  
共通のテーマを決めてさらに交流活動をしよう
- ・テーマに合った交流活動で情報交換し合おう

との交流ならなおさらである。そこでまず初めに、相手を知り、相手を意識する第一歩として、パーウィック校がどのような環境に囲まれているのかパーウィック校のあるメイン州について調べる活動から始めた。

調べ方は、一人一人の自主的な活動としたので、本で調べる子、インターネットを使って調べる子など様々であった。なかなか思うように資料が見つからず、課外で図書館に行って調べる子どももいた。

メイン州の一番の海産物がロブスターであることを知った子どもの一人が家でもらったロブスターを学校に持ってくるなど、徐々にパーウィック校との距離が縮まっていったようであっ

た。また、さらに相手を意識できるように、パーウィック校のパンフレットの写真を拡大したものを提示し、相手をイメージできるようにした。これには、子どもたちは、「何て言う名前かな?」「エリザベス?」「ジョン?」などと想像を働かせ、さらにパーウィック校との距離を近くしたようであった。

また、全校朝礼でも校長先生からパーウィック校との姉妹校提携についての話しを聞いたことも、子どもたちにとっては交流しようという意欲を高め、相手を意識した活動とするには良かった様であった。

そういった活動の中でも、一番相手を意識した体験的活動になったのは、インターネットを使って調べ活動をしている時であった。ある子どもがふと「Berwick」でホームページ検索をしている時に、偶然にも、パーウィック校のホームページを見つけることができた。その見つかったパーウィック校のホームページのアドレス (<http://>

www.berwickacademy.org/) をバーウィック校への「扉を開ける鍵」と呼んで、各自でその鍵を使って、バーウィック校のホームページを見てみることにした。いつもマウス操作でホームページ検索している子どもたちにとって、英語混じりのアドレスを正確に打ち込むだけでも一苦労であった。うまくつながり、バーウィック校の校章が画面に現れると、歓声があがっていた。しかし、開いたホームページは、もちろん英語でかかれていますので内容までは詳しく分からなかったが、添付されていたバーウィック校の校舎の写真や子どもたちが書いた絵を見て「いろいろな校舎がある」「学校じゃないみたい」「かわいい絵」などの声があがり、バーウィック校についてより身近に感じ、より詳しく実感できたようであった。

調べ活動の最後には、それぞれの調べたことを発表して、メイン州やバーウィック校についてお互いに調べたことを共有し合い、さらに詳しく知ることができた。

このようにして、顔が見えない相手でも、相手を意識した体験的活動を進めることができた。

## どのように交流活動を進めるか話し合う場面 および現在までの交流活動の場面

ここでは、主に学びを広げ深めるための②の個々の考えや得意なことを生かせる活動を中心に考察を進めていく。

メイン州やバーウィック校についての発表の後、クラス全体で、これからどのように交流活動を進めるか話し合いをした。ちょうど話し合いの前日にバーウィック校と正式に姉妹校提携の調印を済ませて、校長先生が帰国したので、子どもたちには、最初に、その調印書を見せた。さらに前時でもした様にバーウィック校の子どもたちの写真を提示し、より相手を意識できるようにした。また、調べ活動の時間に見たバーウィック校のホームページを全体に提示し、より一層、バーウィック校が身近に感じることができるようにした。

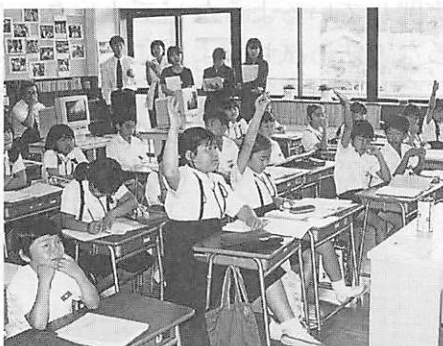
次に「どんなことを交流したいか」交流の内容について授業を進めていった。

右は、その場面での授業記録である。記録を見ると、子どもたちがバーウィック校の友達と交流したい内容は、その子なりにそれぞれあることが分かる。それは、遊びから身の回りの生活、学校、食べ物、生き物と多岐に渡っている。

しかし、子どもたちの意見は、単に興味のあることの羅列で終わってしまっていたので、実際に交流するという現実を前にし、もっと深めることも必要だったのではないだろうか。例えば、C<sub>1</sub>とC<sub>11</sub>で子どもたちは、自分たちが興味ある遊びについて発表している。これについても、自分たちの遊びを振り返ってみたり、バーウィック校の遊びについて想像するなど、もっと深めることで、交流したい内容について明確にすることができたのではないだろうか。

-本時の授業記録の一部-

- T : どんな交流をしたいですか  
 C<sub>1</sub> : どんな遊びをしているか  
 C<sub>2</sub> : 金沢のこと  
 C<sub>3</sub> : 日本に比べてどれくらい施設があるか  
 T : ほかにありませんか  
 C<sub>4</sub> : 勉強の内容について聞きたい  
 C<sub>5</sub> : 学校でやっていること  
 C<sub>6</sub> : どんな花があるのか  
 C<sub>7</sub> : どんな感じの学校か聞きたい  
 C<sub>8</sub> : コンピュータがどれくらいあるのか  
 C<sub>9</sub> : どんな生活をしているか  
 T : もっと詳しく言うと  
 C<sub>10</sub> : どんなくらしをしているか  
 C<sub>11</sub> : どんな遊びが流行っているか  
 (その他にも食べ物・日本との生活の違い・どんな魚や虫がいるかなどの意見が出された)



交流のしかたを発表している様子

次に「どのように交流するか」という方法について授業が進められた。これについては、予想通り、言葉の壁が障害となった。

子どもたちはまず、それを自分たちでは到底、克服困難と考えて、身近な人に訳してもらおうと考えた。子どもたちの身の回りには、英語に堪能な人がたくさんいて、たくさんの方の名前をあげていた。しかし、なかなか自分たちの力、自分ができる方法、得意な方法で克服しようという意見は出なかった。そこで、「どんな花があるのか」(授業記録C<sub>6</sub>)内容についてあがった花についてどう伝えたらいいか、発問し

てみた。すると「絵でかいたらどうか」という意見が挙がった。この意見によって、自分たちの遊びについても、絵をうまく使えば伝わることに徐々に気付いていった。

交流の方法についても以前に4年生（本学級は3、4年の複式学級である）が経験した、インターネットを使ったテレビ電話がきっかけとなり、ファックス、手紙、電子メールなど様々な方法も挙がってきた。子どもたちは、その子なりの方法を考えて、交流を考えているようであった。

授業の後半では、子どもの意見にもあった、電子メールの使い方について体験した。これは、交流の一つの方法としての電子メールを、全員に体験してほしいという授業者の意図であったが、個々の考えや得意なことを生かすという点からみると、やや無理があった感否めない。今後の活動にうまく取り入れ、方法を選ぶ選択肢の一つになることを期待している。

その後、実際の交流活動が始まると、やはり言葉の壁は厚く、個々の考えをいろいろな方法で生かすまでにはなかなか至らず、外国との交流の難しさを痛感した。しかし、5年生が訳してくれたパーウィック校の手紙を見ながら、自分の考えを何とか、得意の絵や自分の知っている英語を使って伝えようと努力する姿が見られるようになった。また、教育実習の先生にも手伝ってもらって、返事の手紙を全員が書くことができた。

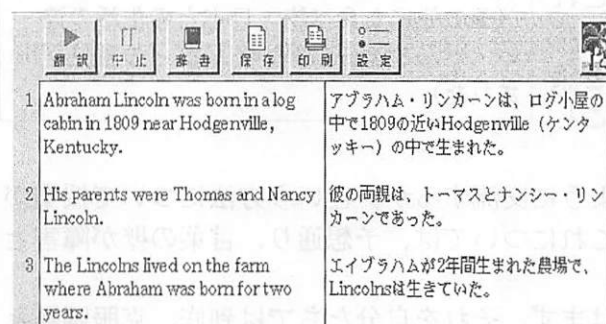


子どもの書いた手紙

### 全体の考察とこれからの交流活動に向けて

最後に、これまでの実践を振り返りながら考察していくことにする。また、これからの交流活動についても、学びを広げ深めるの③環境の整備を中心に考えていくことにする。

今回のパーウィック校との国際交流で子どもたちにとって一番の問題となったのは、言葉の壁であると前述した。それは、指導する側にも同じことが言える。これまでの交流のように、お互いの教師側の方で細かい準備をして進めるということが難しい。校長先生には、間に入っていたが、細かい打ち合わせやその時、その時に応じた対応というのはどうしても難しくなる。実際に交流を進める子どもの側に立ってみても、返事が遅くなる分だけ交流を進めているという実感を持ち続けることが難しくなってくるのも事実である。最初は、期待を持っていた国際交流も単なる形式だけの交流で終わり、意志の通じ合わないものであっては、本物の交流とは言えない。現在、パーウィック校には、さらに一歩前進した交流活動ができるように、クラスとクラスからできるだけ、個と個の交流ができるように名簿の交換し合う準備を進めている。また、今後、もっと個々の考えや得意なことを生かし、多様な交流ができるように環境の整備の大切さも実感した。もっと気楽に、もっと深く交流できるように、大学の学生や附属高校の生徒に翻訳をお願いし、パーウィック校との交流がスムーズに進めることができるような環境の整備も必要であると考えている。また、本時でも使ったような、翻訳ソフトを使ったり、ファックスやホームページ、電子メール等も活発に利用したりなど、もっと手軽に、自分たちだけで交流ができるような環境の整備も視野に入れていかなければならない。また、となりのクラスで実践しているようなビデオレターといったいろいろな方法も試せるように、子どもたち自身、自分に合った方法で交流を進めていけるように環境を整えたい。それによって各自がテーマを持ち、さらに交流が進むことが期待できる。



翻訳ソフトを使った画面の一部